

傾向と対策 2025

[入試科目別傾向と対策]

〔公募制推薦入試Ⅰ期(教科型*)〕

* 保育者養成型・学校教員養成型・音楽教員養成型を含む

■英語		12
■数学		14
■国語		16

※傾向と対策作成：河合塾グループ 株式会社 KEI アドバンス

英 語

出題傾向

入試日程	大問	出題分野・テーマ	難易度
公募制推薦	第1問	空所補充問題（文法・語法、語彙）	やや易
	第2問	整序英作文問題（文法・語法、語彙）	標準
	第3問	対話文完成問題	やや難
	第4問	会話文および広告読解問題	標準
	第5問	長文読解問題	標準
	第6問	長文読解問題	標準

●出題形式

相山女学園大学の公募制推薦入試には、①「教科型」②「総合型」③「保育者養成型・学校教員養成型・音楽教員養成型」があり、①③に英語が課される（国数英から選択）。受験科目は、国語、数学、英語の中から2教科2科目を受験当日に試験場において選択する（外国語学部、教育学部、看護学部は英語必須、国語、数学から1科目選択）。試験時間は2科目あわせて連続した120分となっており、1科目あたり60分程度が解答時間の目安となる（教育学部のみ例外あり）。なお、科目間の問題難易度の差による有利不利をなくすため、得点調整を行う場合があり、その調整方法も公にされている。2026年度は入試方法の名称や試験内容が変更のため、大学ホームページなどで確認すること。

●出題範囲と出題内容

a. 出題範囲

コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ（リスニングを課さない）

b. 出題内容（大問構成）

文法・語法空所補充問題1題、整序英作文問題1題、短めの対話文完成問題1題、長めの会話文読解問題と広告読解問題によって構成された大問が1題、長文読解問題2題の計6題（小問数は40問）

●問題の傾向

第1問は、単文中の空所に適切な語句を補充する形式である。高等学校で習得すべき語彙や表現、文法事項が出題されており、教科書および準拠のテキスト、演習問題集と同程度の難易度である。学校のテキストや準拠の問題集などを土台とした出題で、学校での学習活動が体得できていれば正解できる。第2問は整序英作文問題で、単文中に設けられた5つの空所に、5つの選択肢を入れて英文を完成させる形式である。日本語訳がなく、戸惑う受験生もいるかもしれないが、第1問同様、授業で学習したことをもとに解答を進めていけばきちんと正解できる問題である。第3問は、2人の話者による1往復～1往復半の対話内に設けられた空所を補う形式である。学校の授業ではあまり見かけない口語特有の言い回しや省略なども見られるが、会話の主旨を踏まえたうえで、それに沿うような発話をイメージして空所を補うよう努めるとよい。第4問は、長めの会話文読解問題と、英語で書かれたお知らせを題材とした広告読解問題の2つの形式で構成されている。会話文読解問題では、文章中の空所への適切な表現の補充、下線部の表現が意図している意味内容に類する表現の選択、文章の内容に関する問いへの回答として適切なものを選ぶ問題で構成されている。話者それぞれの視点によって物事のとらえ方が違っているので、それぞれの視点に立って整理しながら読解を進めたい。日常で使われつつも大学入試の難度を超える表現もあるが、会話の流れが把握できていれば推測するのは難くない。広告読解問題では、テーマに関する詳しい説明が書かれており、少々読み応えのあるものが題材として用いられているが、問題の特性上、設問で問われているポイントを先に押さえておくことで、理解すべき部分やその深さを調整することができる。第5、6問は、入試標準レベルの長さの文章を用いて設問が10問ずつ用意されている。それぞれ、文章中の空所を補充する問題、下線部の意味を問う問題、内容真偽に関する問題、文章にふさわしい表題を選ぶ問題などが出題されている。試験時間に対する文章量に不安を感じるかもしれないが、設問部以外で語彙・表現において入試標準レベルを逸脱するようなものはほとんど見られないので、日ごろから読む訓練をしておけば、時間内に読解できるだろう。総じて、日ごろの学習をきちんと実践・復習し、丁寧な勉強と演習を行っていることが試される問題である。

●難易度

入試標準レベルまでで正解できる設問で構成されており、一般入試と同形式かつ同程度の分量であるため、大学入学共通テストと同レベルである。

英 語

学習対策

今まで学習したことを徹底して確認することが合格への確実な要因である。市販の参考書を用いた入試演習や、より上位の単語帳に取り組むよりも、高等学校で学んだことや教科書、テキスト、問題集に忠実に取り組み、わからないことやできないものがないようにしておくことは必須である。そのうえで、英語を読む訓練を行っておこう。

●学習習慣の総点検を行い、「すぐにそのとき」身につけることを徹底していこう

毎日の学習が習慣化していることは大切である。しかし、いわゆるマンネリ化によって悪い習慣がついてしまうこともある。高等学校の学習内容を土台としたスマートな出題は、「この試験で出題されていることにきちんと正答できるような学習習慣が身についている高校生に入学してほしい」というメッセージであると解釈できる。しかも、学校の授業では出会うことのないような口語的な表現や言い回しも散見され、自分からより幅広く英語のアンテナを張ることが望まれている。「折に触れて自分の習慣を客観化し、より良いものに変更・修正することができる姿勢」も問われていると考える。椋山女学園大学の公募制推薦入試は、一般入試と同じ形式の出題量・難易度で出題しており、入試区分によって学力の差がつかないような工夫を行っているようである。ここから、推薦入試で得たい学生像は、「自らの得手不得手に左右されず、努力によって自身の能力を確実に上げていくことのできる学生」であると言える。つまり、今まで行ってきた自身の学習活動や学校生活を土台とし、コツコツと地道に努力を重ね、自身の能力を開花させてきた行動に磨きをかければよいということだ。そのためにも、今までの習慣を再度分析し、より良い習慣へと修正することを実践し、折に触れてそれを行っていくように努めていくとよい。

●高等学校での学習を総点検し、うまくいかなかったことの対策を考えて実践しよう

先の抽象的なアドバイスを具体化すると、今まで行ってきた学習の総点検と、その中でうまくいかなかったことの分析をもとに、これまでのやり方を修正して行うことをおすすめする。例えば、単語・表現が苦手であれば、その覚え方や実践の仕方を工夫してみよう。単語帳の英語と日本語を交互に見るだけにとどめるのではなく、例文を暗唱したり、覚えようとしている表現を使って英文やフレーズを作ったり、音声を使って一緒に発話して覚えたり、4技能と様々な角度から「身にしみこませる」ように単語・表現を身につけるように工夫してみるとよい。読解も、辞書で知らない表現を調べつつ黙読するだけでなく、音声と一緒に読み下し、その後によくわからない表現の意味を推測してから辞書を引いたり、英語の音声と一緒に音読をしたりするなど、文字情報以外のソースをうまく使って「身にしみこませる」ように学習を進めてみるなどの工夫をするとよい。できないことを何度も同じように繰り返すのもよいが、違う観点や要素を取り入れながら、できないことを多角的に訓練することも大切である。

●対策をある程度行ったら、一般入試の問題やより難しい問題も演習してみよう

推薦入試は実施が早く、その分入試までの時間がよりタイトであることは間違いない。よって、割くことのできる対策時間もかなりタイトである。しかしながら、一般入試と同レベルの問題が課されるため、演習する問題のレベルもよりタイトに上げていくとよいだろう。学校での学習の総復習が終わったら、そのほころびを直すことだけに集中せず、修正しつつも入試問題演習へと進めていこう。言うなれば「一針返し縫い」のように、以前のほころびを繕いしつつも新たな布地へと演習のすそ野を広げていくイメージだ。その際、ほころびのポイントや工夫をメモしておく手帳を作っておくと効率がよい。このように、復習ポイントを巻き込みつつ次の演習へ進んでいくことで、一本の糸で強固に下地を作ることができる。時間面で不安を抱えるものは、大学入学共通テストの問題も演習に加えるとよいだろう。

数 学

出題傾向

入試日程	大問	出題分野・テーマ		難易度
公募制推薦	第1問	数学Ⅰ	数と式／2次関数	やや易
	第2問	数学Ⅰ	2次関数	やや易
	第3問	数学Ⅰ	データの分析	易
	第4問	数学Ⅰ	図形と計量	標準

●出題形式

試験時間は2科目で120分なので、数学にかけられる時間は概ね60分で、大問4題すべてを解答する形式である。
解答形式は、当てはまる数値または適切な選択肢の番号をマークするマークシート方式である。

●出題範囲と出題内容

a. 出題範囲

数学Ⅰ・数学A（図形の性質・場合の数と確率）

b. 出題内容

2025年度の公募制推薦入試では「命題と集合（数学Ⅰ）」、「場合の数と確率（数学A）」、「図形の性質（数学A）」からの出題はなく、「命題と集合（数学Ⅰ）」については2年連続で出題がなかった。

●問題の傾向

2025年度公募制推薦入試の第1問は小問集合であり、小問数は4、各小問で1つの単元に関する独立した問いが出題され、第2問以降は単独テーマ問題が出題されている。

●難易度

教科書レベルの基本事項・基本解法を確認する問題や入試頻出の典型問題がメインで、基礎～標準的な内容がほとんどである。2025年度の公募制推薦入試の第4問では、空間図形を題材としたやや複雑な図形が登場したが、丁寧に誘導がついており、前問の結果を利用しながら解き、問題の流れに乗ることがポイントであった。

数 学**学習対策****●基礎固めから始めよう**

前述のとおり公募制推薦入試は基礎～標準問題の出題がメインである。したがって、教科書の内容をしっかりと理解し、定理や公式を正確に使えるようになることが肝要である。まずは、基本事項の確認からスタートしよう。教科書の章末問題を一通り自力で解けるようになることが1つの目標である。

また、教科書による演習と並行して教科書傍用問題集によるトレーニングも効果的である。問題集で解けなかった問題は教科書に立ち戻って確認するようにし、わからない部分があれば学校の先生などに質問してみよう。これを繰り返すことで、基礎力は完璧に近づく。

●計算力を身につけよう

日々の勉強で意識してほしいのが「計算力」である。基礎～標準問題の出題がメインの入試は、計算ミスが合否を分けると言っても過言ではない。計算力の獲得のために、1日に数題でよいので計算問題に取り組むようにしよう。毎日の学習の中で、計算ミスを「ミスをしただけ」と片付けるのではなく、「なぜミスをしたのか」を自分で考え、対策を講じていくことが肝要である。

●最後に

公募制推薦入試は難問や奇問といった特殊な問題は出題されず、日々の学習の取り組みが合否に直結する試験である。特別な対策をするというよりは、基本に忠実に勉強を積み重ねていけば合格に近づくはずである。毎日の学習を大切に、1つずつできることを増やしてってもらいたい。

国 語

出題傾向

入試日程	大問	出典	難易度
公募制推薦	第一問	菅香子『共同体のかたち——イメージと人々の存在をめぐって』	やや難
	第二問	杉本博司『アート起源』	標準

●出題形式

長文形式の総合問題であり、基本的に五肢択一のマークシート方式である。2つの大問で構成されており、2題とも現代文の範囲から評論文が出題された。

●出題範囲と出題内容

a. 出題範囲

現代文は評論文のみが出題されている。古文・漢文は出題されていない。

b. 出題内容

評論文形式の現代文が2題出題され、2025年度は「人間の共同性」に関する哲学的な考察を行う文章と、太陽光の観測装置や研究史などに関するやや随筆風な文章が出題された。2題とも抽象的な用語が多数飛び交う文章であり、登場する概念の定義や他概念との関連性に関する複雑な説明を理解するためには、一定以上の読解力を要するものであった。設問の難易度はいずれも標準的なものであるが、文章の内容を考えると、全体としての難易度は「標準～やや難」である。

●問題の傾向

設問は、漢字、語句の意味、語句や文の空所補充、傍線部の内容説明または理由説明、内容一致（不一致）など、いずれも入試の現代文では定番のものである。設問数は、第一問が11問（マーク数18）、第二問が12問（マーク数12）である。

第一問の文字数は約4,800字程度であった。設問内容は漢字の書き取り、空所補充問題（語句・接続詞）、内容理解に関する問題、問題文全体の内容一致（不一致）などである。第二問の文字数は約3,500字程度で、設問内容は第一問の内容に加えて、語句の意味に関する問題と、修辞法や四字熟語の知識に関する問題も出題されている。

●難易度

2025年度の公募制推薦入試は、第一問は「デュナミス」「エネルギー」など、定義も他用語との関連性もかなり複雑な用語が用いられており、読解に労力を要する文章であった。第二問は観測装置の特性や観測手順、ニュートンとゲーテのそれぞれの主張など、分析・分類を要するトピックが複数登場する文章で、第一問ほどの抽象度はないものの、多数の要素を扱うことが要求された。いずれも文章の内容をしっかりと理解できれば設問に苦勞することはなかったと思われるが、課題文の読みにくさが試験全体の難度を高めている。総じて「やや難」の難易度であったと言える。

国 語

学習対策

●筆者のイイタイコトをつかまよう

評論の筆者は自分の抽象的な意見（イイタイコト）を読者に伝えるために文章を書いている。しかし、それをそのままぶつけても大半の人には理解してもらえない。そこで、具体例をあげたり、自分のイイタイコトと対比されるものを提示し、それと比較させたりすることで、自分の意見をより明確に表現しようとする。入試の現代文は、その筆者のイイタイコト、論の展開を受験生がしっかり把握できたかどうかを確かめるために設問が作られている。よって、問題を解く際は、まず何がテーマ（話題）になっているのかを確認し、具体例と抽象的表現の区別、および筆者のイイタイコトと対比概念との区別を行いながら、筆者の論の展開を正確に把握するようにしよう。そのためには、普段から新書レベルの読書を心がけ、ただ漫然と読むのではなく、各章・各節で上記のことを意識するとよい。問題集に取り組む際も同様である。

●幅広く国語の知識を身につけよう

相山女学園大学では、第一問・第二問を通して漢字や語句の意味など、知識を問う設問も出題されている。漢字の問題集や国語知識の問題集に取り組み、評論文で頻繁に用いられる語句などは意識的に覚えておくべきである。また普段の生活や読書を通して、知らない言葉や事項に出会ったら、こまめに辞書や国語便覧で調べるなどして、語彙力や知識を身につけるよう心がけよう。漢字の問題集に取り組む際も同様である。

●マークシート方式の問題に慣れよう

大学入学共通テスト対策の問題集やマークシート方式の私立大学対策問題集に取り組もう。ただし、やみくもに問題文を読んで、漠然とした理解のまま選択肢を選んで서는ならない。繰り返しになるが、その文章のテーマが何なのか、どういう論理展開で、どんな結論（イイタイコト）を導いているのかを把握したうえで設問に取り組むこと。マークシート方式の問題は上記のことが押さえられていれば選択肢を1つに絞れるように作られている。迷ったときには、選択肢をじっくりと見て考えこむのではなく、設問が何を問うているかを押さえたうえで、常に本文に立ち戻り、本文と選択肢、選択肢相互の異同を照合して判断するようにすること。また、本文の分量も設問数も多めであるため、過去問に取り組んで、時間配分の練習をしておくとうい。

●ややレベルの高い新書の読書を

相山女学園大学では、日常生活では目にすることの少ない抽象的なテーマの文章が出題される。そのうえ、内容説明問題や理由説明問題、問題文全体の内容一致（不一致）問題に関しては、しっかり本文を理解していないと選択肢を選べないような設問がほとんどである。普段からややレベルの高い新書などを積極的に選んで読書をするとうい。